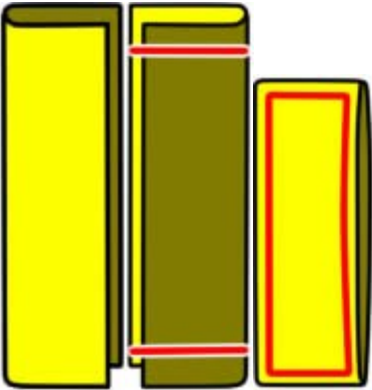

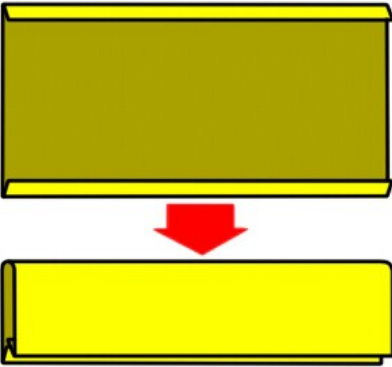

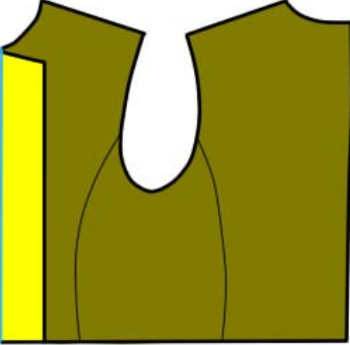
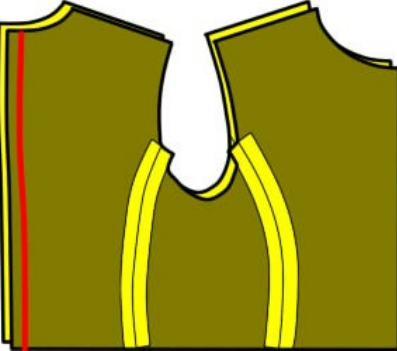
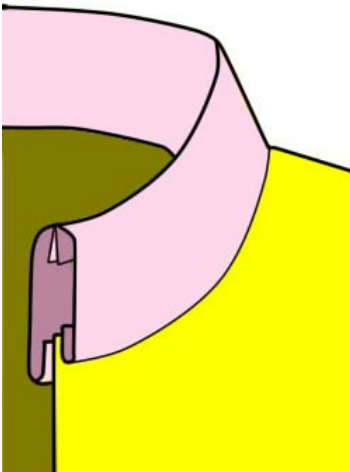
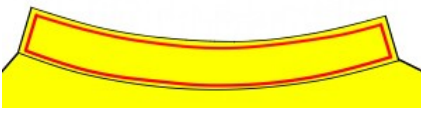
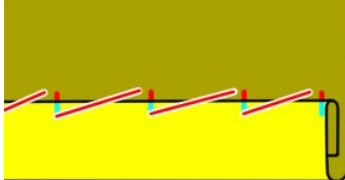

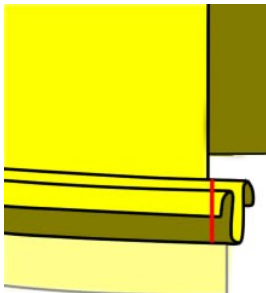



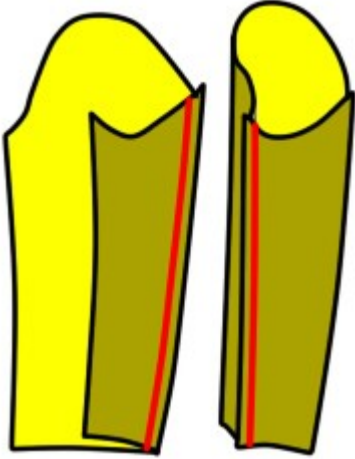

	<p>ショートジャケットの縫い方。 スタンドカラータイプ</p>
	<p>接着芯をはります。 型紙についている縫い代の印を忘れずに写しておく。</p>
<p>■ 表 ■ 裏</p> <p>■ 接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。 見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける。 くわしくは縫う前の下準備を参照 柄等を入れたい場合はこの時点で行う。</p>
	<p>脇のパーツを前身頃と後身頃に縫い合わせる。</p> 
	<p>腰のポケットを作る。</p>  <p>ポケットの縁取り布と前中心の持ち出しを表が見えるように半分に折っておく。</p> <p>ポケットの縫い方は別紙の玉縁ポケットBを参照ください</p> <p>えりも同じように半分に折り目をつける。</p>

	 <p>前中心の持ち出しを作る。 アイロンで縦に二つに折る。 折り目と逆に折り、上と下を縫う。 ひっくり返す。</p> <p>端から 5 mm の所を縫う</p>
	 <p>すそのベルトを縫い代を裏へ折る。</p> <p>表が見えるように半分に折る。</p>
	<p>前中心を出来上がりどおりにアイロンで折る。</p>
	<p>表同士が内側になるように布をねる。</p> <p>後中心を縫う。</p> <p>縫い代は左右に折る。</p>

	<p>肩を縫う</p>
	<p>えりを付ける。 端1cmは縫わない</p>
	 <p>すそにベルトを付ける。 表を上にした身頃のすそに、裏を上にしたベルトを重ねる。 ベルトの端1cmは縫わない。 ※前身頃の前中心の縫い代はファスナーをつけるため1.5cmです。 ベルトの中心側の縫い代は1cmなので、布の端をあわせるのではなく、角の印を合わせて縫ってください。</p>
	<p>ベルトを表が見えるように縫い目から下に折る</p>

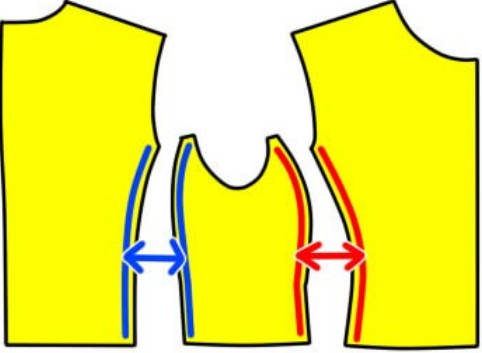
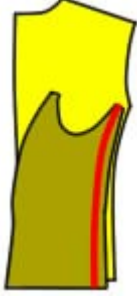


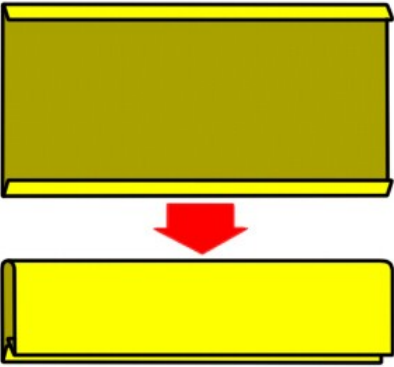

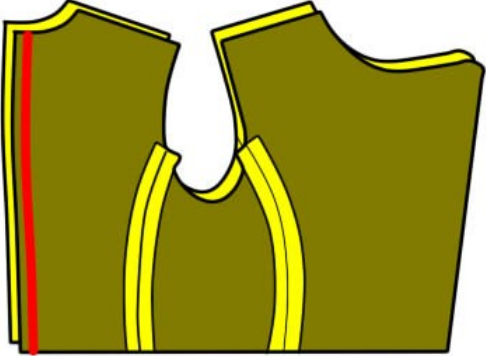
	<p>前身頃の中心に裏を上にしてファスナーを置く。</p> <p>前中心の折り目にファスナーのムシ(レール部分)をあわせる。</p> <p>上側を内側へ折る。</p> <p>上にえり下にベルトが付けるので、金具が1 cm内側になるように配置する。</p> <p>縫う。</p>
	<p>ピンクのほうに持ち出し 暗い水色の方に見返しを裏を上にして重ねる。</p>  <p>←持ち出しは赤い線のほうが二つ折りの山のほう、前中心側がほつれどめをしてある方になるように重ねてください</p>
	<p>もう1枚のえりを裏を上にして重ねる。</p> <p>えりの下の縫い代を上折る。(8~9 mm)</p> <p>前中心の縫い代を縫う。</p>
	<p>見返しを裏に、持ち出しを起こす。</p>

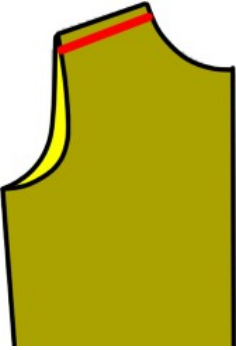
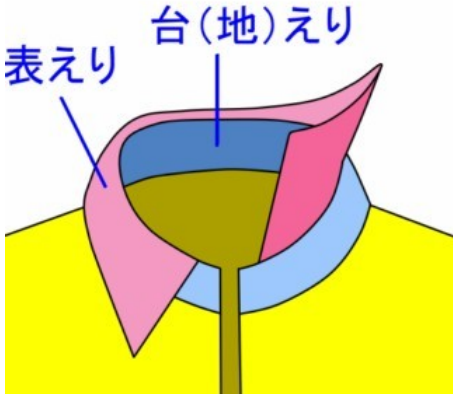


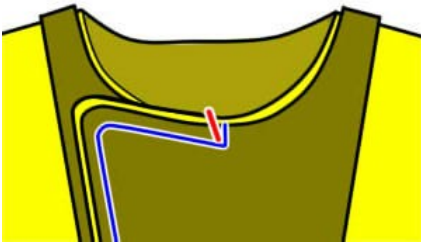
 <p>断面図</p>	<p>えりの縫い代を全部えりの中に入れる。 見返しの上の縫い代も中に入れる</p>
	<p>えりの端から 5 mm 内側を縫う。 ミシンで一直線に縫ってもいいですが、えり縫いの下側は手縫いでまつてもよい。</p>  <p>まつり縫い</p>
	 <p>真ん中の折り目と逆に折る。</p>
	<p>縫い代をベルトの中に入れる。 見返しの下の縫い代もベルトの中に入れる。 端から 5 mm の所を縫う。</p>


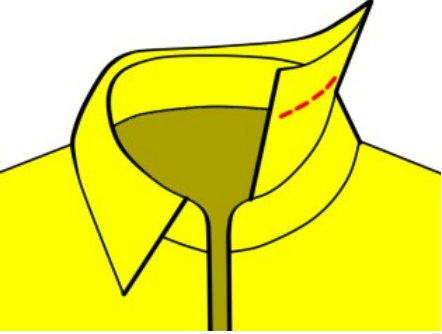

	<p>そでを縫う。</p> <p>二枚そでの縫い方は一番下にあります。</p>
	<p>裏にした身頃の中に、表にしたそでをいれ、肩とそでの山の頂点と、脇と、そでの低いところを合わせる。</p> <p>ギャザーの糸を調整して長さを合わせる。</p> <p>先に端から 5 mm のところを仕付け糸で縫っておくと、ミシンで縫う時に縫いやすい</p> <p>※左の図は効率を上げるため使い回しをしています。</p>


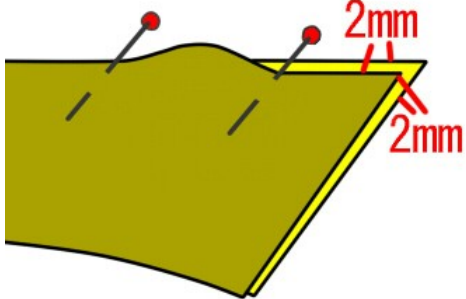


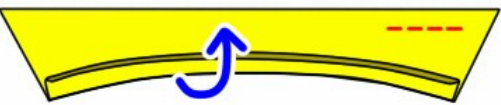

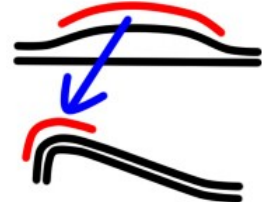

テーラードカラータイプの縫い方

	<p>テーラードカラータイプ</p>
	<p>接着芯をはります。 型紙についている縫い代の印を忘れずに写しておく。</p>
<p>■表 ■裏</p> <p>■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。</p> <p>見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける。 くわしくは縫う前の下準備を参照 柄等を入れたい場合はこの時点ですつける。</p>


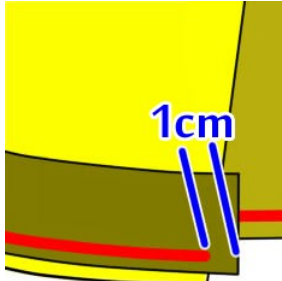


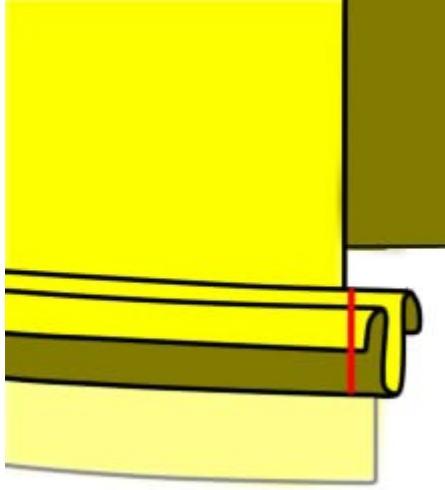
	<p>脇のパーツを前身頃と後身頃に縫い合わせる。</p> 
	<p>腰のポケットを作る。</p> <p>ポケットの縁取り布と前中心の持ち出しを表が見えるように半分に折っておく。</p>  <p>詳しくは別紙の玉縁ポケットBを参照</p>
	 <p>すそのベルトを縫い代を裏へ折る。</p> <p>表が見えるように半分に折る。</p>
	<p>表同士が内側になるように布をねる。</p> <p>後中心を縫う。</p> <p>縫い代は左右に折る。</p>

	<p>肩を縫う</p>
	<p>えりはこのような2つのパーツの型紙になります。</p> <p>各2枚ずつ裁断してください。</p> <p>上側を表衿(上えり)、下の方を台衿(地えり)と呼びます。</p>
	<p>えりの裏に接着芯を貼る。</p> <p>台えりの裏側に隠れるほうの下側の縫い代をアイロンで2mmくらい狭く折っておく。1cmの縫い代だったら8mmくらいで。</p> <p>この2mmがミシンで縫ったとき縫い目がえりから落ちにくくなるポイントです。</p>
	<p>前身頃の表に、裏が見えるように、前見返しを縫い付ける</p>  <p>前中心の印のところに切込みを入れる</p>

	<p>見返しを裏に返して端から 5 mmの所を表から縫う。</p>
	 <p>表えりは、どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいです。</p> <p>しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけておく。</p> <p>完成したら抜くので玉止めなどはしなくてよい。</p>
  <p style="text-align: right;">図 1</p> <p style="text-align: right;">図 2</p>	<p>えりのゆるみを作ります</p> <p>このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと</p> <p>首にそったカーブ(図 1)があります。</p>  <p style="text-align: right;">外側のカーブ</p> <p>と内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。</p> <p>その差を補うために 2~3 mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。</p> <p>これをしないと図 2 の右のえりのように長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先がびよこっとあがってしまうので注意が必要です。</p>
 <p>この区間は均等に待ち針を刺し縫う。</p>	<p>えり先のゆるみの作り方</p>

	 <p>このとき図 A のように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を2~3 mm内側にずらしてまち針をさす。 しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を内側へ押しこむようにして縫う。</p>
	<p>シャツカラーの縫い方</p> <p>衿(えり)を表が内側になるよう(中表)に二枚重ねて縫う。</p> <p>※衿に縫い付ける所は縫わない。</p>
	<p>表に返して5mmの所に表から縫って(ステッチ)固定する</p>
	 <p>印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折る。</p> <p>この時えりがズれます。このずれが折り返しの緩みになります。</p> <p>赤の矢印の方向のゆるみ。</p>
 <p>断面図</p>	<p>こうすると図のように見える側のえり(印がないほう)が膨らみますが、実際えりにつけた時に、えりを折り返した時の布の厚みで相殺されて、えりがすっきりします。</p>
	<p>上で出来たズレを、そのままに端から0.5 cmの所を縫う。</p>

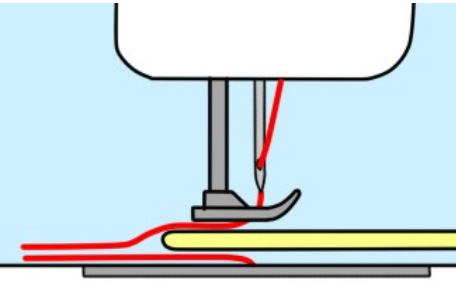
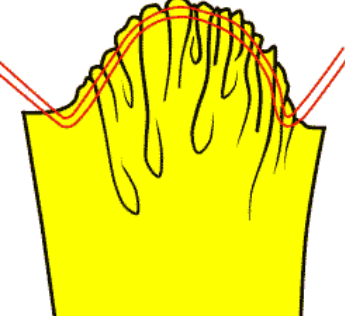
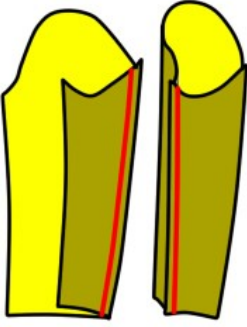
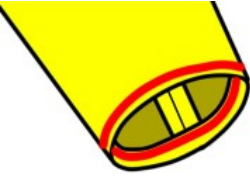

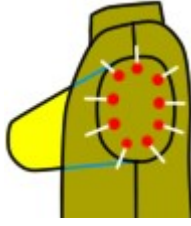
	<p>2枚の台えりで間に上えりを挟むようにして重ね、上の図の a と b の部分を縫い合わせる。</p> <p>ちなみに先に縫い代を折っておいた台えりは、表えりの見えるほうのえりへあわせる</p>
	<p>表えりと台えりを縫う。</p> <p>1.3 cm端は縫わない</p> <p>表えりの両端を台えりに縫いこまないように注意</p>
	<p>台えりの端を前身頃の前中心に合わせる。</p> <p>しつけの印のある方の台えりの縫い代だけ、前身頃のえり首に縫いつける。</p> <p>もう一方の台えりは縫わないようによけておく。</p>
<p>断面図</p>	<p>えりの縫い代を全部えりの中に入れる。</p> <p>見返しの上の縫い代も中に入れる</p>
	<p>えりと、えりぐりの縫い代を、台えりの中に入れる。</p> <p>縫い目から5 mm内側を縫う。</p>

	 <p>1cm</p> <p>すそにベルトを付ける。</p> <p>表を上にした身頃のすそに、裏を上にしたベルトを重ねる。</p> <p>ベルトの端 1 cmをはみ出させる。</p>
	<p>ベルトを表が見えるように縫い目から下に折る</p>
	 <p>真ん中の折り目と逆に折る。</p> <p>縫い代を縫う。</p>

	<p>縫い代をベルトの中に入れる。 見返しの下の縫い代もベルトの中に入れる。</p> <p>端から5 mmの所を縫う。</p>
	<p>お好みの場所にボタンホールを開ける。 スナップボタンにしてもよい。</p>
	<p>そでを縫う。</p> <p>二枚そでの縫い方は一番下にあります</p>
	<p>裏にした身頃の中に、表にしたそでをいれ、肩とそでの山の頂点と、脇と、そでの低いところを合わせる。</p> <p>ギャザーの糸を調整して長さを合わせる。</p> <p>先に端から5 mmのところを仕付け糸で縫っておくと、ミシンで縫う時に縫いやすい</p> <p>※左の図は効率を上げるため使い回わしをしています。</p>

二枚そでの縫い方

	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。 見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける</p> <p>くわしくは縫う前の下準備を参照</p>
<p>裏地なしの縫い方</p>	
<p>拡大図 ↓</p>	<p>そで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。</p> <p>ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。</p> <p>重要！ この時縫い初めと縫い終わりは、布の端から5センチ以上離れたところから縫い始める 初めと終わりの糸は少し長めに出しておく。</p>
	<p>ギャザーの寄せ方</p> <p>ミシンの縫い目の長さを長くしてください。</p>
<p>図A</p> <p>図B</p>	<p>上糸を弱くします。</p> <p>上糸はミシンの糸調節を弱く、もしくは数字を小さくするだけです</p> <p>通常図Aのように糸調子は布の間でつりあった状態が綺麗といわれますが、あえて上の糸を弱くすると、上の抵抗が弱いため下に糸が引っ張られ図Bのようになります。</p>
	<p>縫い代の中を2本縫います</p> <p>1本より2本縫ったほうがギャザーが均等に寄せやすいです。</p>

	<p>縫い始めは糸がすっぽ抜けないように、ミシンの後に糸を長く流して置き、縫っていきます。</p> <p>縫い終わりは長めに糸を残し切るといいです。</p>
	<p>そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。 (これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)</p>
	<p>糸調整を元に戻し 2枚のそでを表側が中になるように重ね(中表という)両脇を縫います。</p> <p>同じように裏地も縫う</p> <p>アイロンでそで口を出来上がり線で折っておく</p>
	<p>アイロンで縫い代を折り縫う</p>
	 <p>←横から見頃(胴部分)は裏返して、そでは表にひっくり返す。</p> <p>見頃の中にそでを入れます。</p> <p>肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめていきます</p> <p>縫う場所より2〜3ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ！</p> <p>しつけ縫いをしたらミシンで縫う。</p>

必要な材料

表生地 接着芯、ボタンもしくはスナップボタン、糸

このデザインに使いやすい生地

合皮には衣類用のものと家具用(椅子など)があります。家具用は耐久性が必要なので厚かったり硬かったりと衣類用には向かないものも多いので注意してくださいね。

・ミルクレーウエイ

水洗いOKな オートドックスなやわらか合皮生地
水洗いが出来るので汗が付きそうな部位でも安心。

サニーレザー

水洗いアイロンかけが出来る合皮。
ただし洗濯は表面に傷がつかないように裏表逆にし、手洗いがいいと思います。
干す際は、直接日光が当たらない所で陰干しがいいと思います。

・薄手のエナメル

柔薄手で、光沢のある生地です。
薄いので貼り自体は刺さりやすいのですが、摩擦が大きいため、布がミシンに貼りついて縫いづらい場合があります。そんな時は布用のシリコンペンを塗ってから縫うと簡単に縫えるようになります。

カツラギ(綿)

サイトの写真はこれで作りました。
厚手で色数も多く比較的手に入りやすい生地です。
洗濯も一般的なお洋服と同様に出来ます。
厚いので、針は太いものに変えて、縫い目の長さは少し長くしてください2.5~3mm位

ポリエステルツイル

ポリエステルで出来た綾織り(斜めの織り模様の入った生地)
お店によって厚さが異なるので
厚めの物を使うとしっかりします。
しわになりにくいのでイベントなどに持っている時は便利

関連説明書

縫う前の下準備

たまぶちポケットBの縫い方

	<p>たまぶちポケットをつくる</p>
	<p>アイロンで半分に折ってください。 赤い部分をほつれ止めしてください。</p>
	<p>ポケット口の位置を合わせて身頃の表にポケットを1枚裏を上にして重ねてください。</p>
	<p>ポケット口を縫ってください。 白い部分をカットしてください。 ミシン糸を切らない程度に、角ギリギリまで切り込みを入れてください。</p> 
<p>表</p> 	<p>切込みを入れたら、ポケットを裏側に入れて下さい。 アイロンをかけて折り目を落ち着かせてください。</p> <p>裏</p> 

	 <p>裏から見たところ 四角くあけたポケット口に合うように持ち出しの端をあわせてピンでとめてください。</p>
	 <p>青い部分をミシンで縫ってください。</p>
	 <p>もう一枚のポケットを重ねてください。 ※身頃を縫いこまないようによけながらポケットの周りだけ一週縫ってください。</p>
	 <p>周り一周ほつれ止めをしてください。 (身頃を縫いこまないようにね)</p>
	<p>ポケットの上側を、玉ぶち布(ピンクのところ)を縫いこまないように端を縫ってください。</p>